

カトリック香里教会 受難の主日(枝の主日) 2022年4月10日

— ルカ23章・1-69、フィリピ2・6-11、ルカ23章・1-49—

しかし人々は、「十字架につける、十字架につける」と叫び続けた。ピラトは三度目に言った。「いったい、どんな悪事を働いたと言うのか。この男には死刑に当たる犯罪は何も見つからなかった。だから、鞭で懲らしめて釈放しよう。」ところが人々は、イエスを十字架につけるようにあくまでも大声で要求し続けた。その声はますます強くなった。そこで、ピラトは彼らの要求をいれる決定を下した。そして、暴動と殺人のかどで投獄されていたバラバを要求どおりに釈放し、イエスの方は彼らに引き渡して、好きなようにさせた。人々はイエスを引いて行く途中、田舎から出て来たシモンというキレネ人を捕まえて、十字架を背負わせ、イエスの後ろから運ばせた。民衆と嘆き悲しむ婦人たちが大きな群れを成して、イエスに従った。 —ルカ23章—

過越しの神秘

救われたいと望んで、神に救われない人はいません。神は、人間の救出が届かない所までも降りて行って、救出して下さる方だからです。救いとは、この世で何不自由なく安泰でいられることにあるのではなく、神とつながって「永遠の命」を戴く者となることです。すなわち、神から復活の体を戴いて、神と共に永遠に生きる者にされることが、私たちの真の救いと教会は教えています。この救いを、人類に与えるために神はこの世に来られました。そして、人間には越えられなかった『死』を克服する「過越しの神秘」を、ご自身の「復活」をもって私たちに示されました。この過越しの神秘を完成するために、エルサレムにお入りになったキリストを、教会は年ごとに迎えて、私たちは自分自身の救いである過越しを、心で準備するのです。

「過越し」とは、逃げ場のない窮地に立たされた時、神の手によって難を過越すことを指します。人類はこの神秘をかつて旧約時代に、モーセを介して一度体験しています。神の民イスラエルが、支配者エジプトから解放された時でした。そして最終的な過越しの完成である人類救出計画は、神ご自身を介して、人類をサタンの支配下にあるこの世から、神が支配して下さる神の国への脱出（エクソダス）へと、エルサレムにおいてキリストの先導でなされたのです。

意外さは、人類をサタンから開放する脱出方法が「十字架の死」であったことでしょう。この十字架を恐れないように！！ サタンの支配下における真の勝利は、サタンの住処である自分自身（自我）の克服ですから！ 私たちの真の救いは、自我の満足を通してではなく、反対に、自我を滅する「十字架の死」であることを、私たちに教えて主イエスは今日、死んでくださったのです。後に連なる私たちに、その完全な勝利である「復活」を勝ち取らせるために。主キリストが、この世の「救い主」であるとは、神の救いの道が十字架の死であるということを彷彿とさせてくれる映画がありました。

ハイウエーの海底トンネルが崩落し、閉じ込められたドライバーに、地上からレスキュー隊が、困難の果てに現場にたどり着いたシーンでした。遭難者の喜びもつかの間、出口にたどりつくには、レスキュー隊員が困難をくぐり抜けてきた道程を戻って行かなければならないのです。潜水して壁をくぐり抜け、向こう岸へつかなければならぬ難所で、隊員は、ひるんだ老人に指示します。『大きく深呼吸をして水に飛び込み、私の後に続いてください』 と。中には力尽き果てる者も出ましたが、残りの者は出口に到達するのです。

十字架のイエスの後に従い切る力は、わたしたちの「信仰」です。レスキュー隊イエスは、私たちの一番弱い者の所まで下りてきて下さるのですから、このイエスを見失いさえしなければ、私たちは、主イエスから、難関をくぐり抜けて死を過越す力を、誰もが戴けることを忘れないでいましょう。やがて、サタンに対する完全な勝利である「復活」の栄光に与えられるのですから！

2022年4月10日 主任司祭 昌川 信雄